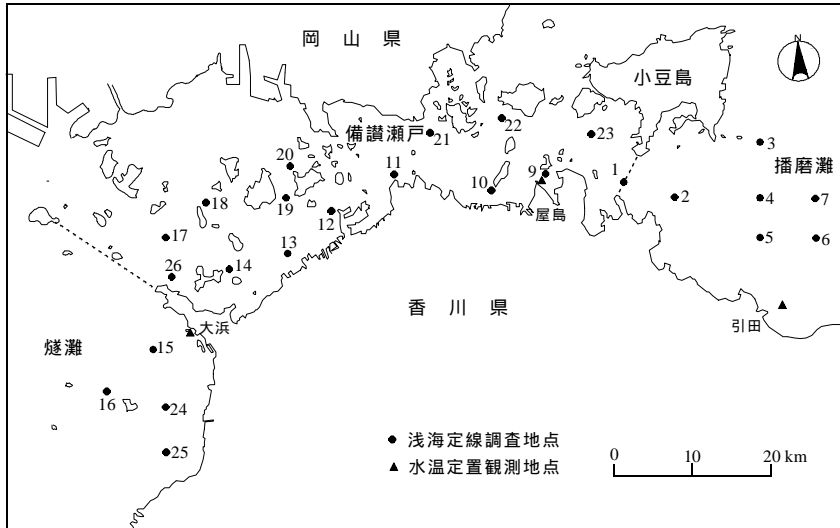


# 香川県漁海況速報 平成16年 7月 (H16- 4号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



### 2) 浅海定線調査

#### (1) 調査日

平成16年7月2日(播磨灘) 1日(備讃瀬戸、燧灘)

#### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「かなり高めから著しく高め」、塩分は「かなり低めから平年並み」、透明度は「かなり低めからやや高め」、溶存酸素は「かなり低めからやや高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	24.0	22.0	19.9	31.6	31.8	32.1	9.8	4.71	4.20
	平年値	22.0	20.6	18.8	31.5	31.8	32.1	8.2	5.26	3.70
	平年偏差	2.0	1.5	1.1	0.1	0.0	0.0	1.6	-0.55	0.45
	状況	かなり高め	著しく高め	かなり高め	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	やや低め	やや高め
備讃瀬戸	14地点平均値	22.9	22.3	21.9	31.0	31.2	31.4	3.4	4.33	3.98
	平年値	21.3	20.8	20.5	31.5	31.8	32.1	4.2	4.78	4.54
	平年偏差	1.6	1.4	1.4	-0.5	-0.6	-0.7	-0.8	-0.45	-0.56
	状況	かなり高め	著しく高め	かなり高め	平年並み	やや低め	かなり低め	やや低め	やや低め	かなり低め
燧灘	4地点平均値	26.6	22.1	19.3	29.5	32.2	32.6	6.0	5.47	3.30
	平年値	23.9	20.1	18.2	31.4	32.4	32.6	10.5	5.37	3.79
	平年偏差	2.7	2.0	1.1	-1.8	-0.2	0.0	-4.5	0.10	-0.49
	状況	かなり高め	著しく高め	かなり高め	かなり低め	平年並み	平年並み	かなり低め	平年並み	やや低め

平年偏差 = 平均値 - 平年値

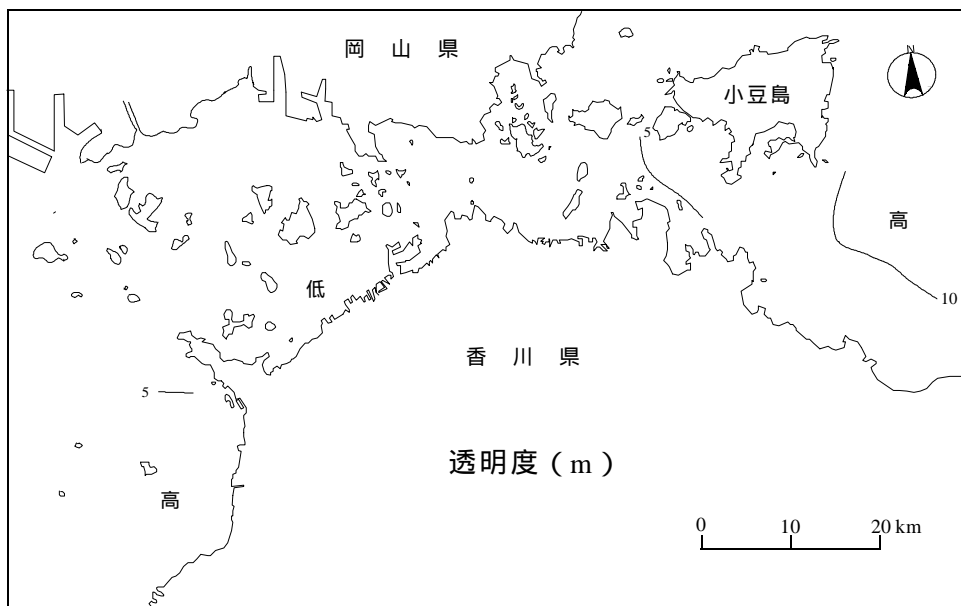
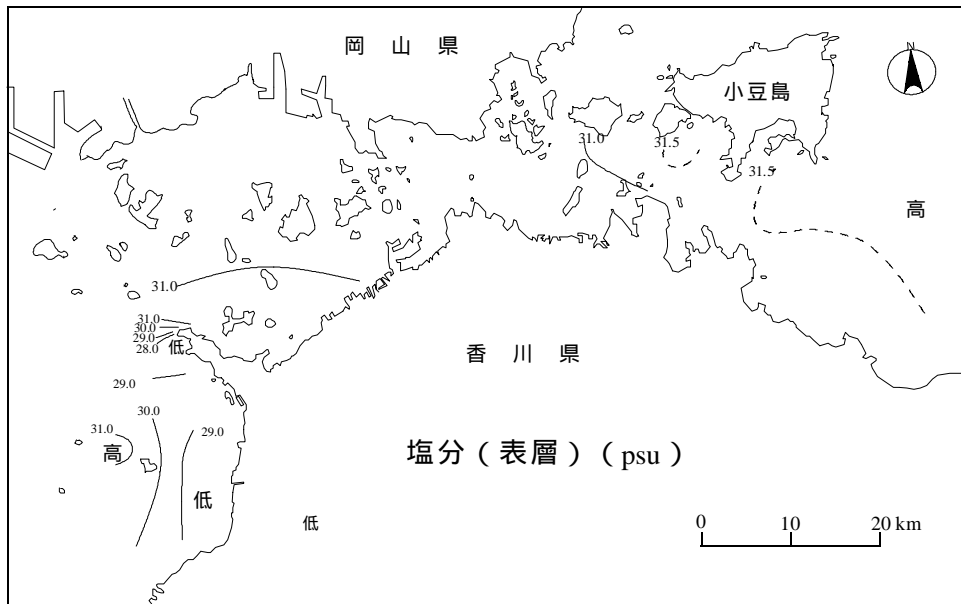
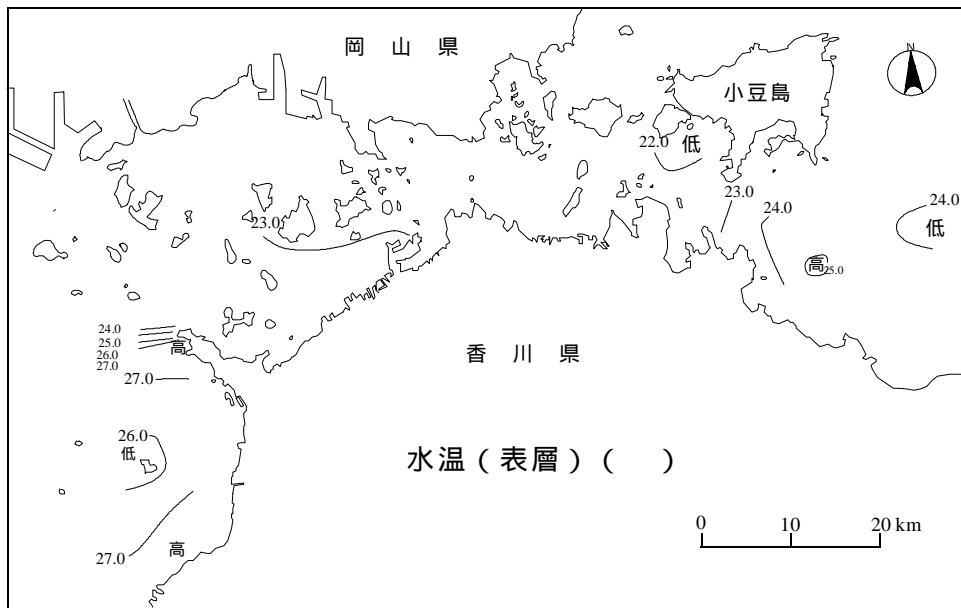
平年値の算出期間 水温及び塩分：昭和47(1972)～平成13(2001)年度

透明度：昭和58(1983)～平成13(2001)年度

溶存酸素：昭和55(1980)～平成9(1997)年度

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	( : 標準偏差)
やや高め(やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め(かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め(著しく低め)	2.0	平年偏差	



## 2) 定置観測(水温)

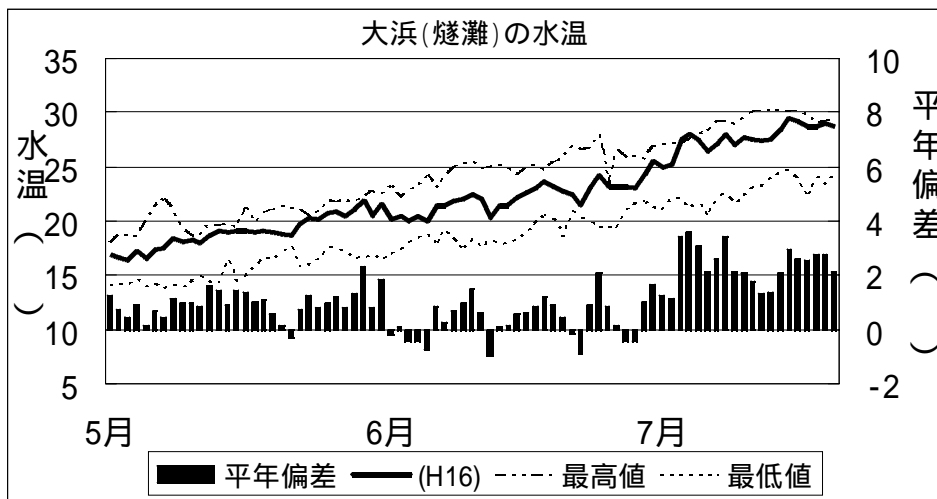
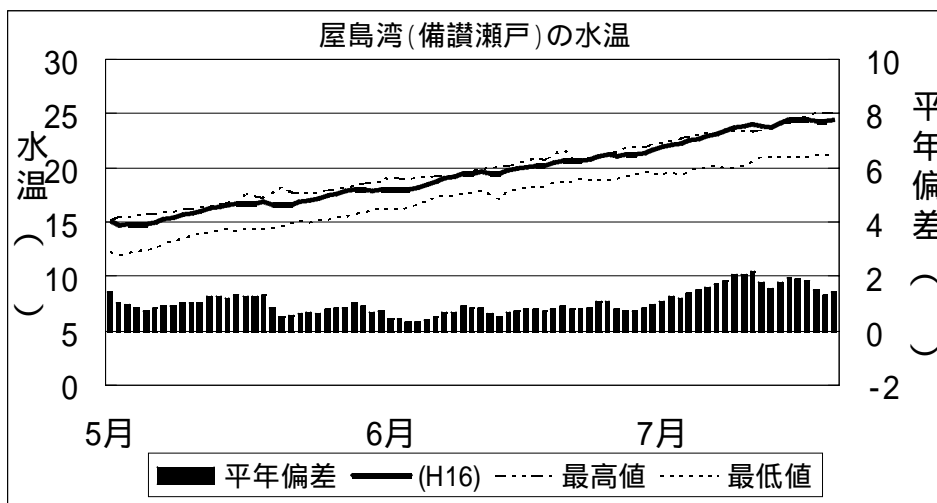
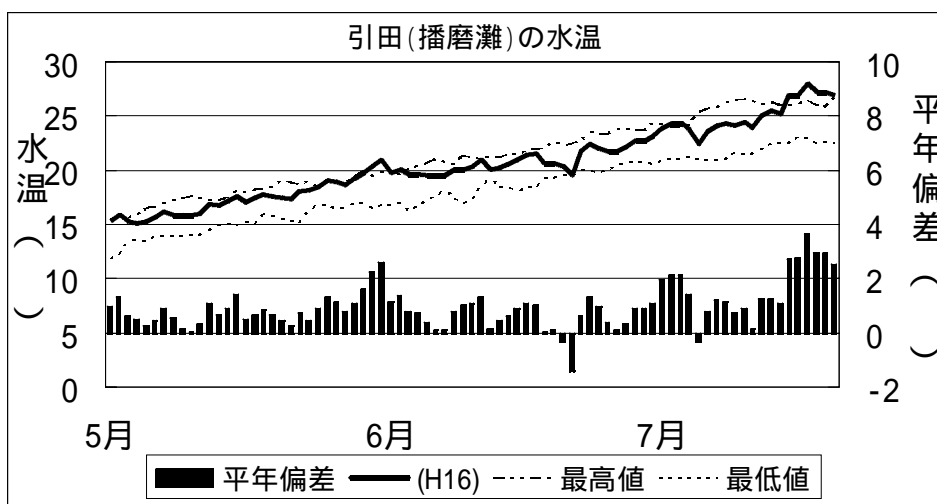
播磨灘(引田): 6月は中旬の一時期を除き平年偏差が1前後で推移した。7月に入り一時やや偏差が大きくなり、その後やや小さくなっていったが、中旬から大きくなり偏差が2を越えて推移している。

備讃瀬戸(屋島): 6月は平年偏差が0.8前後で推移していたが、7月に入り偏差が大きくなり1.8前後で推移している。

燧灘(大浜): 6月は平年偏差が-1から1.5前後で大きく変動したが、7月に入り偏差が大きくなり2前後で推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成14(2002)年

屋島: 昭和50(1975)~平成14(2002)年



### 3) 赤潮

播磨灘：7月下旬、南部で *Gymnodinium mikimotoi* による赤潮が発生した。

備讃瀬戸：7月上旬、東部（坂出港）で *Prorocentrum dentatum* による赤潮が発生した。下旬、西部で *Chattonella ovata* による赤潮が発生し養殖ハマチに被害を与えた。

燧灘：発生なし。

### 4) 卵稚仔

調査日：平成16年7月2日（播磨灘）、1日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	33.80	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	10.40	0.50
備讃瀬戸平均	1.30	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	14.70	3.50
燧灘平均	2.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	36.30	0.70
総平均	10.27	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	18.60	2.03

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	75.0%	7.8%	-	-
備讃瀬戸平均	40.5%	15.2%	-	-
燧灘平均	18.6%	0.0%	-	-
総平均	60.8%	7.6%	-	-

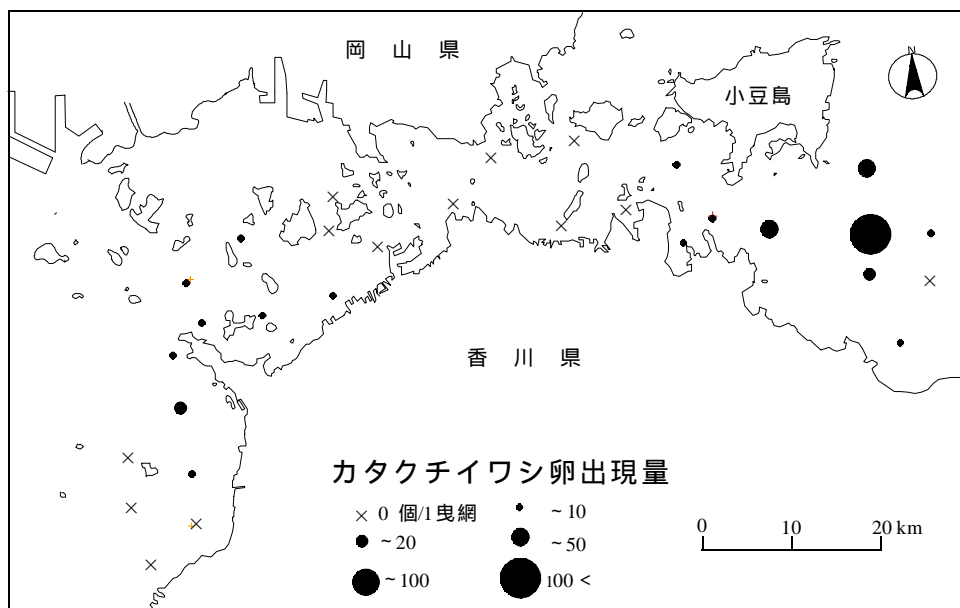
- : 平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成15（2003）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成15（2003）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は、次のとおりである。



## 2. 漁況

6月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>底びき網は全般的に低調で、クラゲが前年同様多い。 ます網ではマアジ（小） スルメイカが漁獲されているが、全般的に低調である。 大型定置網では主にカタクチイワシ（大羽） スルメイカ、マアジ（小）が漁獲されている。 東讃のシラスの船びき網の6月の漁獲量は81トンで前年を大幅に下回り、近年では最も低い漁獲量であった</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、小エビ類、マダコ、コウイカ類が漁獲されている。 マナガツオ流し刺網は前年同様低調な漁獲である。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主にメイタガレイ、マコガレイ、小エビ類、アカカマス、シロギス、コチ類、トリガイを漁獲している。 建網のキジハタが少ない。 イワシ機船船びき網の6月の漁獲量は大羽主体で前年の約3倍と好漁であった。</p>